

2019年12月24日 上演③

第72回中部日本高等学校演劇大会

速報 立山3号

岐阜農林高校

西野勇仁 作

「人（やね）」



○幕間討論

Q.寮歌は生徒自身で作られたのですか？

A.詞は顧問の先生、曲は合唱の先生に作ってもらいました。

Q.どんな気持ちで歌われましたか？

A.一人で苦しんでいても、一緒にいれば乗り越えられる、最後には出て行かなければならない場所なのだという切なさが伝わるように歌いました。

Q.なぜあの扉を使ったのですか？

A.中と外の区別をはっきりさせる役割と食堂の雰囲気をもっとわかりやすくするため。

Q.最後の扉を開ける演出は芽衣子の教師になるという夢を見つけたということ？

A.つらくなったときいつでも戻ってきなさいというという気持ちを表していました。

Q.大道具は全て作られたのですか？

A.全て作りました。

Q.岐阜農林高校は普段からこんな感じなの？

A.明るい人が多く、実習で多くの人と関わるので、劇のような感じかもしれません。

岐阜農林高校さん

お疲れ様でした！

○あらすじ

美濃高校「七草寮」は多くの寮生が暮らしてきた伝統ある寮。そこに、それぞれ異なる思いを抱いた三人の寮生がやって来る。農業のため、部活のため、そして家族から逃げるため…。東京から来た「鷺沢 新」は寮生達が歓迎会を開くも、あまり馴染めなかった。「ここは第二の家、私たちは家族。」その温かい言葉で新の心は溶かされ段々寮に馴染んでいく…。

○客席インタビュー

- ・人数が多いけれどみんなが目立っていた良い演劇だった。
- ・鷺沢君と女子寮長の芽衣子の2人で歌ったシーンが心に残った。
- ・工夫された舞台セットが良かった
- ・毎回舞台装置のすばらしい岐阜農林高校さんですが、今回は動く門とピアノといったシンブルな装置で新鮮だった。

